

はに『魅力ある学校をめざして3』 令和2年9月16日

「主体的に取り組んでいるかのアンケート項目は、もっと低い数値が出ると思っていました。」

ある小学校の「魅力ある学校づくり」検討会議で、子どもたちへのアンケートの結果をもとに、先生たちが話し合っています。

「何でそう思うの？」

「私のクラスは、あまり発言が無いので…」

「そもそも、主体的の捉え方って難しくないですか…。」

「子どもたちは、手を挙げたり、発表したりすることが主体的って思いがちかも。」

「たしかに、挙手や発表は分かりやすい活動の様子だね。」

「そうそう、考え込むときって、実は静かだ。」

「でも、ざわついているように見えて、真剣に話し合っていることもあるね。」

「『主体的』の共通理解から始めることが大切かも。」



子どもの思う主体性と、教員の考える主体性、さらには、教員同士の捉え方のズレへと話題が進んでいきます。

そして、話し合いは次のステップへ。各グループでの話し合いをもとに、他のグループとの交流の時間が始まります。

「主体的な授業をつくるために、めあてやねらいを工夫しよう。」

「教師が説明する時間を減らしたいね。」

「教え合いや、子どもたち自身で、その日の学びをまとめる時間を増やしたい。」



子どもたちに主体的に学んでもらいたいと望む先生方は、主体的に学ぶ先生方でした。

『はに』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合いましょう。

ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp

*「魅力ある学校づくり調査研究事業」は、新規の不登校を生まないために、子どもたちに4つの項目（学校が楽しい・みんなでなにかするのが楽しい・授業に主体的に取り組んでいる・授業がよくわかる）を聞くアンケートを実施し、子どもの声に耳を傾け、教員が自分たちの取組を振り返り、子どもたちの居場所づくりや、仲間や教員との絆づくりをとおして、子どもにとって「魅力ある学校」をめざしていく国立教育政策研究所が委託する事業です。*アンケート項目等、裏面参照。

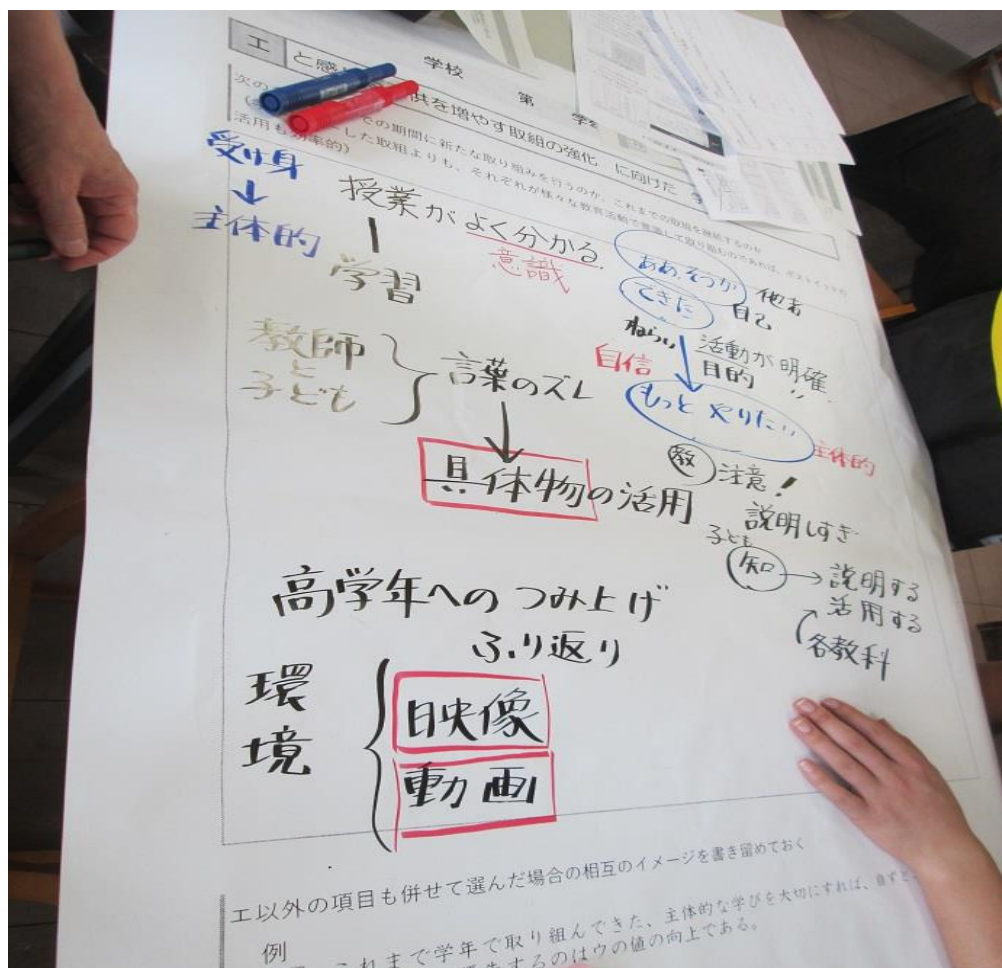
(参考) 横須賀市作成リーフレット「魅力ある学校ってどんな学校？」(令和2年3月)より

意識調査のどこに注目し取組を考える？

○先生方のとらえと、子どもたちのとらえのずれがないか見るものです。そのため、先生方は毎回の意識調査の前に、4つの質問に対する子どもの回答がそれぞれ何%になるかを予想しておきます。

質問 \ 回答	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
ア 学校が楽しい				
イ みんなで何かするのが楽しい				
ウ 授業に主体的に取り組んでいる				
エ 授業がよくわかる				

○「どちらかといえばあてはまる」に回答した子どもたちが次回調査時に「あてはまる」の回答になるために、どのように取組を計画・修正するかを学年全職員で検討します。



「エ 授業がよくわかる」を選んだグループのまとめの様子